

厚生労働科学研究補助金（障害者政策総合研究事業）

児童・思春期精神疾患の診療実態把握と連携推進のための研究  
令和2～4年度 総合分担研究報告書

分担研究課題名：子どもの心の診療実態の把握と連携に関するアンケート調査、心の診療  
研修に関する調査、専門医へのインタビュー調査

研究分担者 小枝 達也 国立成育医療研究センターこころの診療部

研究要旨

子どもの心の診療実態の把握と連携に関する調査として全国の医療機関へのアンケート調査、関連学会や団体が実施している子ども心の診療研修に関する調査を行った。

アンケート調査では、診療対象とする疾患として精神科、小児科ともに不登校が最も多いこと、精神科医療機関ではICD-10のFコードの疾患を満遍に診療対象としていること、小児科の医療機関では、発達障害や心身症を対象とする医療機関が多いことを把握することができた。これらはカルテ調査により把握された診療の実態と合致していた。

関連学会や団体が実施する研修の内容では、抽出したキーワードとして発達障害や学校、ASDの頻度が高いという結果であった。診療実態と研修実態を比較すると、F4（身体表現性障害、不安障害）が診療実態に比べて研修の割合が少なく、関係機関との連携では、福祉との連携が診療実態に比べて研修では少ないという結果であった。

小児科専門医へのインタビューにより、患者と家族の関係性の指導に苦慮していること、摂食障害の受け皿が少ないこと、診療報酬の制限によって実質的にボランティアとしての活動になってしまっていることが語られた。

コロナ禍における子どものメンタルヘルス調査を実施し、臨時休校とコロナ禍が子どもたちのストレスとなっていることが明らかとなった。

研究協力者

奥野 正景（三国丘病院 三国丘こころのクリニック）  
西牧 謙吾（国立障害者リハビリテーション病院）  
小倉 加恵子（国立成育医療研究センター こころの診療部）  
岡田 俊（国立精神神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部）  
飯田 順三（医療法人南風会万葉クリニック子どものこころセンター絆）  
竹原 健二（国立成育医療研究センター 政策科学研究部）  
加藤 承彦（国立成育医療研究センター 社会医学研究部）  
青木 藍（国立成育医療研究センター 政策科学研究部）  
新村 美知（国立成育医療研究センター 政策科学研究部）  
小河 邦雄（国立成育医療研究センター 政策科学研究部）  
黒神 経彦（国立成育医療研究センター こころの診療部）  
半谷 まゆみ（国立成育医療研究センター社会医学研究部）  
森崎 菜穂（国立成育医療研究センター社会医学研究部）

A. 研究目的

児童青年期における精神疾患の診療実態と研修の実態について、明らかにするとともに、専門医へのインタビューにて量的調査では見えて来ない課題を抽出することを

目的とする。また、新型コロナ流行に伴う子どものメンタルヘルスの状況を把握する。

B. 研究方法

1. 全国医療機関へのアンケート調査

調査対象の医療機関は、子どもの心の診療ネットワーク事業参加自治体（21自治体）の拠点施設（29施設）と日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）加盟施設（36施設）、全国児童青年精神科医療施設協議会会員施設（35施設）とし、各医療機関に協力を依頼した。

## 2. 関連学会・団体が実施している研修の調査

精神科系、小児科系、心理系の学会や団体から、学術集会、研修会、セミナー等で配布した子どもの心の診療に関連する抄録を収集し、文字データ化をしたうえで、KH Coder を用いてテキストマイニングを行い、キーワードの出現頻度を求めるとともに、診療実態と比較して、不足している研修内容を抽出した。

## 3. 小児科専門医へのインタビュー調査

日本小児科医会から推薦された小児科専門医2名に対して、オンラインにてインタビューガイドの沿ったインタビューを実施した。

## 4. コロナ禍における子どものメンタルヘルス調査

コロナ×子どもアンケートにて、コロナ禍における子どものメンタルヘルスの状況を把握する。SNSのLineを使ったアンケート調査として実施した。

## C. 研究結果

### 1. 全国医療機関へのアンケート調査

診療の対象とする疾患群では、R468 不登校が92%と最も多く、F7 知的障害、F8 心理的発達の障害、F9 小児期および青年期に通常発症する行動およびは情緒の障害（ICD-10のコード、以下同様）も90%近くの施設で診療されていた。診療所、総合病院、子ども病院ではF2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、F3 気分障害を診療している施設・診療科が70%未満と少ない傾向があり、診療所、総合病院ではF5 摂食障害、T74（虐待関連）を診療している施設・診療科が70%未満と少ない傾向があった。

標榜診療科別では、精神科系を標榜して

いる施設・診療科では小児科系と比較し、いずれの疾患群も診療している割合が高かった。全疾患群で未就学児は小児科系標榜科でより高頻度に診療されており、高校生以上20歳未満で精神科系標榜科でより高頻度に診療されるという傾向が見られた。2年以上診療を継続するケースが多かったのは、F2、F7、F8、F9であった。

## 2. 関連学会・団体が実施している研修の調査

13の学会や団体（日本精神神経学会、日本児童青年精神医学会、日本思春期青年期精神医学会、日本精神科病院協会、全国児童青年精神科医療施設協議会、日本児童青年精神科・診療所連絡協議会、日本小児精神神経学会、日本小児科学会、日本小児神経学会、日本小児心身医学会、日本小児科医会、日本公認心理士協会、日本臨床心理師会）より201演題の抄録を収集することができた。

文字化したデータ数は1,992,331であった。このデータからテキストマイニングにより、子どものこころの診療に関連するキーワードを選定し、その出現頻度を求めた。

その結果、出現頻度の高い上位5つは、発達障害が1421、学校が1201、ASDが1145、連携が545、福祉483であり、上位3つが突出して高かった。これらのキーワードをカテゴリ化して診療実態と比較したところ、ICD-10のF4（身体表現性障害等）が診療実態では22.9%であるのに対して、研修の割合では7.9%と少なかった。また関係機関との連携では診療実態では、福祉との連携が45.8%であるのに対して研修の割合では24.5%と少ないという結果であった。

## 3. 小児科専門医へのインタビュー調査

インタビューの内容で2名に共通したのは、養育力の脆弱な家庭への指導や治療に困難を感じていること、一うち1名より、思春期での家庭内暴力の防止に苦慮していることが語られた。また摂食障害を引き受けてくれる医療機関が少ないこと、小児特定疾患カウンセリング料が2年間で終了となるため、医療として成り立たないことも語られた。

こうした第一線の医師から語られたキーワードは、①養育力の脆弱な家庭への対処

の困難さ、②摂食障害の受け皿の少なさ、③診療報酬上の問題であり、量的調査では得られていない情報であった。児童・思春期のこころの診療をいっそう進める上で、改善すべき研修や診療上の改善点として極めて貴重な情報であると考えられた。

#### 4. コロナ禍における子どものメンタルヘルス調査

臨時休校により友人に会えないこと、スクリーンタイムが増えたこと、生活面でのストレスが高じた小児が多かったことなどが明らかとなった。

### D. 考察

#### 1. 全国医療機関へのアンケート調査

こうした医療施設側から見た診療実態は、本研究班で実施したカルテ調査結果と一致しており、患者数に対応した診療体制がとられているものと考えられた。またカルテ調査の結果と同様にアンケート調査でも2年以上診療を継続している割合が高いことが明らかとなった。

#### 2. 関連学会・団体が実施している研修の調査

子どもの心の診療に関する研修の内容で、出現頻度が高いキーワードを抽出することができた。また、診療実態との比較で研修の頻度が少ないと思われる内容を抽出することができた。こうした情報を関連する学会や団体に還元することによって診療実態に合わせた研修が実施されることが期待される。

#### 3. 小児科専門医へのインタビュー調査

コロナ流行に伴う子どもと家族への影響を考慮する必要があるが、摂食障害や子どもと家族との関係性に苦慮している小児科専門医の診療の状況が明らかとなった。医療として継続する際に診療保険上の課題があることも明らかとなった。

#### 4. コロナ禍における子どものメンタルヘルス調査

臨時休校が子どもたちの大きなストレスになっていること、生活習慣にも影響を及ぼしていることが明らかになった。また、医

療受診控えが発生していることや、メンタルヘルスの悪い保護者が多いことなども分かった。

### E. 結論

#### 1. 全国医療機関へのアンケート調査

医療施設へのアンケート調査によって、医療側の視点から、児童思春期の精神疾患の実態や医療体制を明らかにすることができた。カルテ調査による診療実態とアンケート調査による診療実態は一致していた。

#### 2. 関連学会・団体が実施している研修の調査

診療実態と研修内容との比較から、疾患としてはF4の研修が少なく、連携としては福祉との連携に関する研修が少ないことが示唆された。これらの結果を協力学会や団体に還元し、今後の研修の参考とする資料として提供した。

#### 3. 小児科専門医へのインタビュー調査

摂食障害や子どもと家族との関係性の診療に苦慮している小児科専門医の診療の状況が明らかとなった。

#### 4. コロナ禍における子どものメンタルヘルス調査

臨時休校とコロナ禍が子どもたちに少なからずストレスとなっている。

### F. 健康危険情報

とくになし

### G. 研究発表

1) Frontier Psychiatry, 12, Trajectories of healthcare utilization among children and adolescents with autism spectrum disorder and/or attention-deficit/hyperactivity disorder in Japan. 2022, Jan, Aoi A, et al.

### H. 知的財産権の出願・登録状況(予定含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし



